

# 福島は いま

2011年3月11日の東日本大震災から5年が経ちました。福島第一原発の放射能漏れ事故が起きた福島県では、いまだに10万人が避難生活を余儀なくされています。福島県内の民医連の3病院は、震災直後から全国支援も受けつつ必死に医療体制を維持してきました。あの日から始まった3病院の5年間を追います。

## わたり病院



# 聞こえてきた笑い声

## 史上初、研修医5人体制に

福島市の医療生協わたり病院（一九六

床）は、福島県民医連唯一の基幹型臨床研修病院※。原発事故の影響で特に医師不足が続く福島で、後継者育成も大切な役割です。

この三月、嬉しいニュースが。初期研修を終えた国井綾医師が、わたり病院を後期研修先に選んだのです。同院で後期研修医が誕生するのは実に一〇数年ぶりのこと。「医局から笑い声が聞こえるようになった」と遠藤剛院長。若い力で院内に活気がみなぎっています。

### 患者の要望にこたえて

わたり病院は震災後、患者の要望に応じて組織を改編。県北初の緩和ケア病棟（二五床）をオープンし、高齢化がすすむ地域の実情に合わせて回復期リハビリ病棟を五七床に増床しました。

朝礼を病棟・外来全体に広げたり、入院時のカンファランスを始めなど集団的な医療体制も構築。「震災後、看護師体制が厳しい中で職員のやりくりができました。情報や問題を共有することで、職員の間でベシヨンアップにもつながりました」と、同院総看護長の荒井史子さん。

また、研修医を支えようとメンター（援助者）として若手とベテランの看護師を配置。荒井さんは「研修医と職員が互いに刺激し合い、院内の風通しが良くなりました」と振り返ります。

ナースステーションで談笑する総看護長の荒井さん（中央）ら看護師



※基幹型臨床研修病院 病院独自に初期研修医を研修できる病院

## 総合診療医の道へ

こうした地道な努力が実り、国井医師に続き、昨年四月には初期研修医三人が入職。今年四月にも一人が入職する予定で、新年度はわたり病院始まって以来の研修医五人体制になります。

もとは小児科を希望していた国井医師ですが、同院で初期研修を重ねるうち、総合診療医の道にすすもう

と決意しました。「ソーシャルワーカーら多職種と協力して、患者さんのふだんの生活の様子を把握するよう」に努めました。総合診療を通して、さまざまな困難を抱えた患者さんとかかわりたい」と国井医師。

総合診療はわたり病院でも特に力を入れている分野。民医連らしい魅力にあふれた病院だからこそ、後期研修先に選んだのです。

昨年四月に入職した木村純医師は

「わたり病院を選んだポイントとは、地域に根ざした医療活動。他病院で研修している友人に聞いても、より実践的な研修内容で勉強になります」と言います。

木村医師は福島県南部の矢祭町出身。東京の大学出身ですが、あえて福島の病院を選びました。「原発事故があったからこそ、地元の復興に貢献したいと思いました」。

## 支援が学びの場に

わたり病院のある福島市渡利地区は、比較



遠藤院長

## より地域に密着した病院へ

放射線量の高い地域です。震災後は不安で夜も眠れない病棟患者がいました。「ナースステーションで患者さんの話を聞くこともありま

た。何も話さなくても、黙ったままそばにいてもありました」と荒井さん。民医連の「患者に寄り添う」医療を実践してきたのです。

震災直後は中堅職員が相次いで退職。日常診療の維持が困難になりましたが、全国の民医連事業所から医師、看護師、リハビリ職員が支援に入りました。

荒井さんは「感染症対策など、全国の看護師からさまざまなとりくみを聞くことができました。支援は大きな励みになるとともに、学びの場にもなりました」と振り返ります。

職員の体制はまだまだ厳しいものの、全国からの医師支援は昨年一〇月で終了。同院は支援に感謝するDVDレターをつくり、全国の事業所に郵送する予定です。

震災から五年を経ても原発事故は収束せず、住民の不安は続いています。同院は放射線の学習会を繰り返し開き、放射能を「正しく恐れる」ことを心がけてきました。また、院内に内部被曝を測定するホールボディカウンターを設置し、市の委託で住民の放射線量を測っています。

医師養成の分野では、福島県民医連の医師委員会を再建し、委員長には遠藤院長が就任。福島市医師会を中心に、市内の基幹型臨床研修病院（福島赤十字病院、大原総合病院、わたり病院）の連携を強める「NOWプロジェクト」（NOWは日赤、大原、わたりの頭文字）も始まりました。

遠藤院長は民医連の理念である「無差別平等の地域包括ケア」を掲げ、リハビリと在宅医療を強化、より地域に密着した中小病院としての展開を見えます。「住民が安心してこの地に住み続けられるよう、今後も病院機能を強化していきたい」と抱負を語りました。

文・新井健治（編集部）

写真・酒井猛



病院玄関の看板の前で。研修医の村井馨菜、三保恵里、国井、木村の各氏（左から）「わたり病院提供」